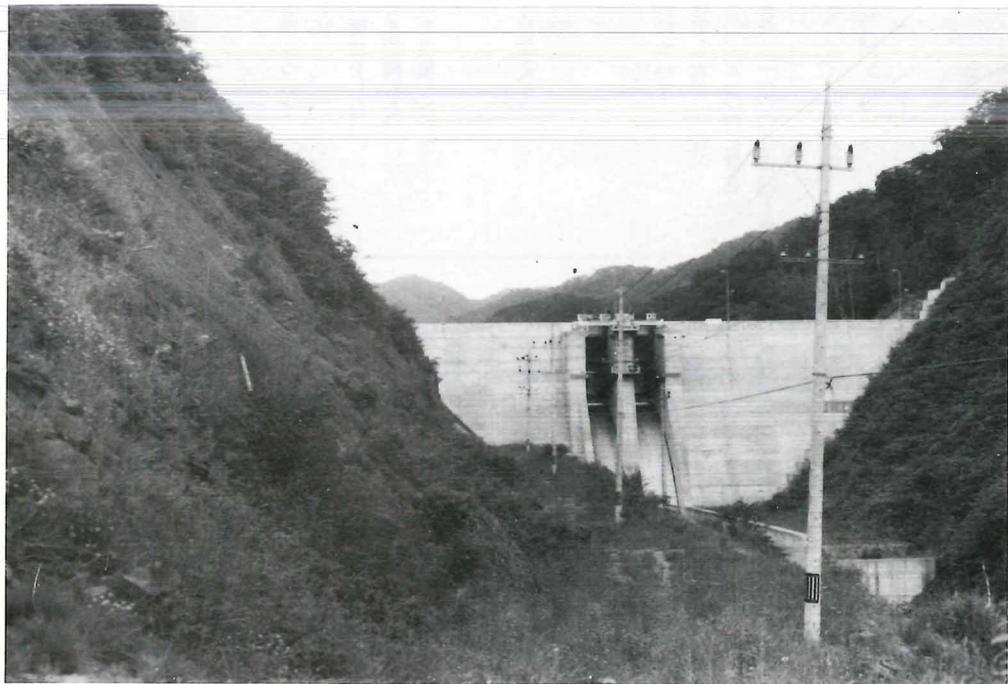


# いなづま

題字 小寺寛一

発行所 函館地方電気工事協同組合  
 編集総務部  
 住所 函館市日乃出町7番22号  
 印刷所 畠山印刷



矢別ダムと20kV配電線

## 就任のあいさつ

理事長 大倉伸夫

昭和五五年度総代会を了え、非力乍ら再度理事長を勤めることになりました。

毎年、大変な年だ大変な年だとかけ声ばかりかけて効果の上の施策を講ずることも出来ず、誠に申し訳なく思っております。

年々深刻さを増す不況ムードは、今年もその歩調をゆるめてはおりません。無責任なダブル選挙のおかげで、只でさえ例年以下の公共事業の発注が、大巾に遅れ民間の冷え込みとあいまって益々我々建設関連の仕事に響いて参っております。又組合の内外から指摘の通り、業者の多過ぎる事が年々激過する過当競争となつて表れ、業者としての健全な経営をもおびやかしている事実は、自由経済の世の中とは云え黙過する訳には参りません。

我々は、組合員の皆さんから諸々の提案のある通り我々業界を守る方法即ち自己防衛のための組合を中心とした協業化の諸施策の実施等、いよいよ真剣に考えなければならぬ時期に来ていると思います。

組合員各位には、役員であるなしに拘らず業界共通の目的のため、絶対のご協力をお願い致す次第であります。

全国代では全日電工連が、北海道では工業組合が第三者賠償責任保険を始めとする各種共済保険を設定する等又共同保守管理業務の推進等共同事業面等も積極的に進めておりますので、当組合としてもこれ等に協力し乍ら進めて参りますので、組合員全員の利用をお願い致す次第であります。

どうぞ、組合員の中から一人の落伍者の出る事なく今期二年の任期を全う出来ますことをお願いしてご挨拶いたいたします。

# 役員会だより

## 第九回役員会

五五・三・四

一、道工業組合総代会、臨時総会の報告

(一)、佐藤電工倉病氣入院見舞

(二)、川内谷電気工事店代表者怪我入院見舞

三、貸付報告

五社 二一〇万円

四、各支部・部会報告並提案事項について

西支部=新規加入者の了解

八雲支部=町に分離発注の要請をした。

江差支部=安全衛生協議会を開催した。

中渡島支部=仙台に研修旅行を実施した。

五、電気設備安全運動について

六、新規加入について

八雲支部のみ結論を二ヶ月保留する。

七、全日電工連政治連盟について

八、労災保険関係の調査について

九、適正価格委員会の問題

慶弔規程、旅費規程の改訂について

慶弔規程のみ次のとおり改訂した。

(一)、組合員死亡の場合 五〇、〇〇〇円と供花

(二)、両親、配偶者死亡の場合 一〇、〇〇〇円と供花

(三)、従業員死亡の場合 五、〇〇〇円と供花

(四)、組合員病気見舞 一〇、〇〇〇円

第一回役員会

五五・四・一五

一、慶弔報告なし

二、貸付報告

三社 一〇〇万円

三、各支部・部会報告並提案事項

東支部=新規加入者の審査

福島支部=支部総会を開催した。

中渡島支部=標準価格について再検討を願いたい。

四、総代会について

(一)日時 五月二十八日 午後一時三十分

(二)場所 組合会議室

(三)新規加入者の審査

八雲支部=(一)支部長、総代を選出した。

五、総代の選出について

六、組合員の脱退及び除名について

(別掲)

七、組合相続加入及び承継加入について

(一)、室沢電気商会=室沢官三郎→室沢タニ

(二)、菅原電気商会=菅原光信→菅原憲造

八、道工業組合の出資金について

取り敢えず仮払支出により払込む

九、昭和五十四年度収支決算について

大倉理事長より説明

十、その他

第二回役員会

五五・五・二〇

一、慶弔報告

(一)、恵山電気商会代表者母堂死亡

(二)、巴電気工業所代表者令室死亡

(三)、日本電設工業㈱従業員死亡

(四)、石橋電気商会前代表者死亡

(五)、松田電工社代表者尊父死亡

二、貸付報告

三、各支部・部会報告並提案事項について

訓練部会

(一)、全道技能競技大会が十勝で開催され、当組合

(二)、修了式・入学式について

(別掲)

東支部=新規加入者の審査

福島支部=(一)支部長、総代を選出した。

支部になるよう要請して欲しい。

八雲支部=支部長、総代を選出した。

(二)新規加入者の審査

江差支部=支部長、総代を選出した。

(三)新規加入者の審査

中渡島支部=全右

赤川支部=全右

四、総代会について

(一)、五十五年度事業計画案並予算案について

(二)、役員選挙投票用紙の作成について

五、「電気工事費改訂のお願い」新聞広告について

六、その他



組合行事

3月17日	職域安全懇談会に大倉理事長出席 （於監督）	訓練校新年度旅行（仙台）
16日	訓練校修学旅行（於札幌市）	西支部定例会議
15日	東支部定例会議	税務研修懇談会（於組合會議室）
14日	全日本八雲支部北桧山ブロック会議	訓練校技能照査（学科）
13日	いなづま編集会議	訓練校技能照査（実技）
12日	厚生年金基金代議員会に大倉理事長出席 （於札幌市）	全日本電工連災害互助会に大倉理事長出席 （於東京都）
11日	第五十一回三水会議（於組合會議室）	NHKテレビ受信システム講習会（出席者二七名）
10日	北支部定例会議	道工業組合総代会・臨時総会に大倉理事長出席 （外理事八名出席）
9日	第九回役員会	全道電気工事技能競技大会打合委員会に吉田校長吉岡主任指導員出席（於札幌市）
8日	中渡島支部会議	北電函館営業所業務取扱研修会（出席者七七名）
7日	全日本訓練校主任会議	全道電気工事技能競技大会打合委員会に吉田校長吉岡主任指導員出席（於札幌市）
6日	訓練校主任会議	北電函館営業所業務取扱研修会（出席者六三名）
5日	北電函館営業所業務取扱研修会（出席者七七名）	訓練校新年度旅行（仙台）

17日	金融委員会議 (署)
19日	西支部会議
20日	中支部会議
21日	北支部会議
22日	八雲支部八雲ブロック会議
23日	八雲支部北松山ブロック会議
24日	中小企業振興委員会に坂本事務局長出席 (於商工会議所)
25日	全日電工連災害互助会に大倉理事長出席 (於東京都)
26日	函館訓練協会理事会に平井副校長出席
27日	厚生年金基金事務取扱説明会(於組合會議室)
28日	道工業組合役員会・委員会に大倉理事長、吉田副理事長出席(於札幌市)
29日	東支部定例会議
30日	労働保険年度更新事務説明会(於組合會議室)
31日	訓練校主任会議
1日	第一回役員会
2日	北支部定例会議
3日	厚生年金基金理事会に大倉理事長出席 (於札幌市)
4日	会計期末監査
5日	道工業組合對北電本店配電課協議会に吉田副理事長出席(於札幌市)
6日	対北電函館當業所懇談会に大倉理事長外理事六名出席
7日	総務・経理部会合同会議
8日	中渡島支部定例会議
9日	西支部定例会議
10日	赤川支部定例会議

お知らせコーナー

組合の窓口で行なつて居る北電函館営業所の  
計器受払業務について、担当者が変りましたの  
でお知らせ致します。

なお、計器類の受払業務は、月曜日から金曜日まで、午前九時より午後三時までです。また、計器・SBの受領には印鑑を必要と致しますのでご協力願います。



昭和五十五年度の第三十二回通常総代会が去る五月二十八日午後一時三十分より当組合会議室に於いて開かれた。先に選ばれた総代定数八十二名中七十六名(委任状出席十四名を含む)の出席を得て、理事長挨拶につづき、議長に横井雄吉氏、副議長に佐藤征次氏を指

## 役員改選

名推薦により選出、議案審議に入った。

第一号議案『昭和五十四年度事業報告並びに決算について承認を求める件』並びに第二号議案『昭和五十五年度事業計画案並びに予算案について承認を求める件』について、それぞれ事務局並びに理事者側より内容説明があり、質疑応答が行われた。今回は特に討議すべき問題点や質問事項が少なかつたが、予算案等の関連で例年と異なる点は、今年度事業計画の一環として、労働省指定「雇用改善モデル事業」がとりあげられたことで、その為の組合助成金として、壱百万円が雇用改善事業費の科目で予算に織入れられ、その調整として、他の予算科目に例年と比較して金額の減少或是異動のある事の説明があつた。その他決算案、予算案について、それぞれ理事長並びに担当理事よりの今後の運営方針等が述べられ、討議の結果原案通り承認された。

つづいて組合員資格について欠落の認められる既加入組合員の除名の事に關して討議採決することの可否について出席者の意見を求められたが、途中休憩時に於いて、本人より任意退の意志表示があつたので、この件に關しては討議の対象にしないことで了承された。

引きつづき次の議案である『理事および監事の任期満了に伴なう選挙について』に移り、各支部より一名宛が選舉管理委員に委任された後、定款の規定通り無記名連記の方法に上り投票が行なわれ、予定通り理事十五名監事三名が新役員として選ばれた。以上によりすべての議案の審議を終り午後五時半閉会した。



## 役員担当業務

去る五月二十八日開催された総代会で選出された理事十五名の担当業務が次のとおり決まりました。  
なお、業務の必要により、理事以外の組合員の皆さんにも、いろいろとご協力をお願ひしなければなりませんので、その節はよろしくお願ひします。

### 一、総務部会

細川、吉田、平沼、工藤、佐々木(二)

### 一、経理部会

細川、平沼、佐々木(請)

### 一、事業部会

伊東、細川、佐々木(請)、工藤、西岡、平井、加賀、高橋、安保、後藤、浜野

### 一、訓練部会

吉田、平井、西岡、工藤、加賀、安保  
安保、佐々木(請)、細川

### 一、脱退者

次の四名の組合員が脱退致しました。

- 一、三友商会 代表者=松井俊雄(中渡島支部)
- 一、ヒトシ電器 代表者=吉岡 等(東支部)
- 一、品沢電気工業㈱ 代表者=品沢光芳(中支部)
- 一、加藤電気商会 代表者=加藤安春(福島支部)

▽新役員紹介



理事  
伊 東 幾 郎  
大正五年三月生  
有限会社  
ユタカ電機工業所  
代表取締役  
取締役社長



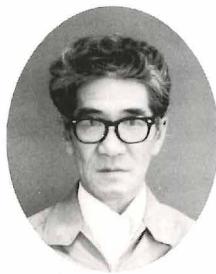
副理事長  
吉 田 要  
昭和三年八月生  
函館拓北電業株式会社  
代表取締役



副理事長(西支部長)  
細 川 政 明  
大正六年一月生  
日本電機保全株式会社  
取締役社長



理事長  
大 倉 伸 夫  
昭和三年五月生  
大倉電気株式会社  
取締役社長



理事  
金 本 慶 三  
大正十五年一月生  
有限会社  
ヤマト電気工業所  
代表取締役



理事(赤川支部長)  
工 藤 義 一  
大正十三年二月生  
株式会社工藤電気商会  
代表取締役



理事  
平 井 行 衛  
大正十二年八月生  
株式会社平井電気  
代表取締役



理事(福島支部長)  
高 橋 勝 英  
大正十二年二月生  
有限会社高橋電設工業所  
取締役社長



理事  
安 保 芳 雄  
昭和六年二月生  
安保電気商会  
代表



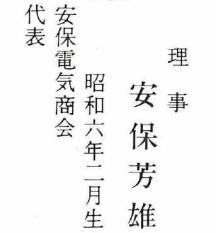
理事(東支部長)  
佐 々 木 請 作  
昭和五年二月生  
佐々木電気商会  
代表



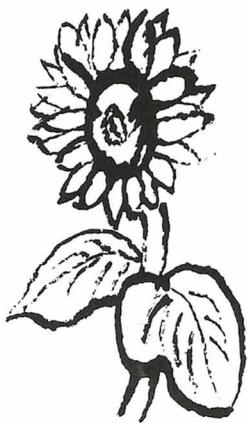
理事(八雲支部長)  
後 藤 又 蔵  
昭和四年九月生  
有限会社後藤電気商会  
代表取締役



理事(江差支部長)  
浜 野 電 力 男  
昭和四年七月生  
浜野電気商会  
代表



理事(中支部長)  
西 岡 大 成  
昭和二年十二月生  
有限会社西岡電気  
代表取締役



有限会社  
佐々木電気工業所  
代表取締役

監事(中渡島支部長)  
大正十三年六月生  
佐々木三男

日興電気株式会社  
取締役社長  
大正八年十一月生  
香田電気工事店  
代表

監事  
日計文雄  
大正八年十一月生  
香田電気工事店  
代表

監事  
稻生  
大正八年十一月生  
香田電気工事店  
代表

加賀電気株式会社  
代表取締役  
昭和六年八月生  
加賀秀雄

理事(北支部長)

## 昭和54年度卒業生名簿 (第14期生)

氏名	勤務先
横内清一	加賀電気(株)
江口正樹	樺電工業(株)
坂上敏雄	〃
中畑寛三	㈱函東電気
加藤雅章	㈱(北)弘電社
小山博	共栄電気工業(株)
小林幸一	小林電機商會
鶴蒔浩二	佐上電気
沢田信二	沢田電工社
西村則道	〃
七尾孝弘	新栄電気
高橋昭	土屋電気工事店
板東春雄	中沢電気工業(株)
高田栄司	長尾電気商會
山村政美	日本電機保全(株)
早川浩二	早川電気商會
広瀬政規	藤電気工事(株)
山村耕二	北斗電気(株)
大川史夫	㈲松木電気工業所
武藤龍典	㈱吉浦電機商會
吉浦正勝	〃

函館電気高等職業訓練校の入学式は、去る五月十二日午後六時より函館市訓練センターにて行われた。本年の入学者は、七名と例年になく少人数となつた。三月下旬より訓練関係者が鋭意募集にとめたが、応募者が少なく、訓練校としての採算ベースにのらない為、新入生が四・五名の際は一年生のみの休科もやむを得ないとの悲観的な見方が強かつたが、どうやら九十名の申込みがあつたので、入学式に踏みきつたものである。

新一年生は、平均年令二八・八才で例年よりはやや年令が低くなつた。

## 訓練校だより

### ◎入学式

函館電気高等職業訓練校の入学式は、去る五月十二日午後六時より函館市訓練センターにて行われた。本年の入学者は、七名と例年になく少人数となつた。

五月二十一日午後一時より組合會議室に於いて、渡島支庁商工労働課長、函館市商工労働課長等来賓及び卒業生の事業主ならびに組合の担当役員の出席を得て挙行された。

本年度第十四回の卒業生は二十一名で、卒業証書を手渡され、晴れて電気工事士として業界の新しい戦力が誕生した。

卒業証書のほか、優秀賞・努力賞・皆勤賞等も授与されて、来賓祝辞のあと卒業生代表山村耕二君(北斗電気(株)勤務)が謝辞を述べ、卒業式を閉じた。

その後、恒例の茶話会は出席者全員、ジュース、コーラ等で乾杯、約一時間に亘って賑々しく行われ、最後に卒業生の記念撮影で幕を閉じた。

訓練校関係者の熱意と努力に敬意を表し、卒業生の今後の活躍を大いに期待します。

### ◎卒業式・修了式

## 組合員の異動変更

〔組織・名称・住所の変更〕

(新)

(旧)

一、(株)富岡電気工事	富岡電気工事
一、石高電気	
函館市本町	函館市高松町
三四一一二	一〇五一七三
一、(株)工藤電気商会	
函館市本通町	函館市美原一丁目
三七九一三九	三五一一三三
一、ソボ電気商会	
鈴谷電気工業(株)	(角坪電器商会)
一、三光電気商会	
代表者 吉田 広	吉田 一



卒業生茶話会

## 組合員消息

一、五月上旬 正栄電気代表者小林豊氏怪我入院

一、四月二十日	恵山電気商会代表者一本柳文之
一、四月二十七日	助氏ご母堂ご逝去
一、四月二八日	巴電気工業所代表者田仲時次郎 氏ご令室ご逝去
一、五月二日	石橋電気商会元代表者石橋豊三 郎氏ご逝去
一、五月九日	松田電工社代表者松田清氏ご尊 父ご逝去
一、五月二七日	三光電気商会元代表者吉田一氏 ご逝去

## 隨筆

私の戦後は了つた

平沼智子

行動を共にすると云う事で、島民、三百余人が自決した事である。

海上挺進隊とは、ベニヤ板の一人乗りの小さな舟に爆弾を積み、敵艦に体当りをする特攻隊、即ち人間魚雷の特殊部隊である。

昭和二十年三月、沖縄戦のはじまりの時、米軍は先づこの危険な舟艇を破壊して本島へ襲いかかった。それだけに前進基地であったこの小さな島の人々には、苛酷な運命が待つて居たわけである。

戦後二十五年、はじめて慰靈祭を行うとき、この島民自決が誤った先入観から、當時の隊長が上陸をこばまれ、上陸した隊員と、上陸出来ぬ隊長との間に、手旗で意思の伝達をした状況が、アサヒグラフに掲載されたのを、御存知の方が居られると思ふ。この慰靈祭がきっかけとなつて、作家曾野綾子氏の手によって、細部にわたつて調査され、作家の眼を通してこの悲劇の実態が

この慶良間列島の渡嘉敷島という小さな島は、海上挺進第三戦隊の基地であり、第一、第二の基地が他にあったのだろうが、この島が世間の注目をあつめたのは、軍と戦も次第に震んで来て居る昨今である。

「ある神話の背景」と云う題で分厚い本となつて世に出た。

私はこの本の中に、ホンのチヨツピリ弟が書かれているのですが、誰も悪いのではない、人間の心理としてあんな状態の時は、集団自決が行なわれたとしても、仕方がなかつたのではないかと納得出来る。

昨年、島民と旧隊員並びに遺族によつて、苦酷な状態を記した「戦跡碑」が建てられた。慰靈碑は「白玉の塔」として、軍民の別なく納骨されて居るが、この島の悲劇も長い歴史の一コマである。曾野氏の撰によつて、次のような碑文が刻まれた。私はあえてこれを多くの人に伝えたいと思う。

記

ここに記すのは、昭和二十年（一九四五年）この島に於て戦われた激しい戦闘と、島民の死の歴史である。

大東亜戦争の最後の年の三月二十二日より、この渡嘉敷島は、米軍機の執拗な空爆と、機動部隊艦艇からの艦砲射撃にさらされた。山は燃え続け、煙は島を包んだ。当時、島にあつたベニヤ板張りの舟を利用した、夜間攻撃用の特攻舟艇部隊は、出撃不可能となり、艇を自らの手によつて自沈するようにとの命令を受けた。こうして、当時、島にあつた海上挺進第三戦隊、同基地隊などの将兵、軍夫三十五名は、僅かな火器を持っただけで、島の守備隊とならざるを得なかつた。

三月二十七日、豪雨の中を、米軍の攻撃に追いつめられた島の住民たちは、思納河原ほか数か所に集結したが、翌二十八日、敵の手にかかるよりは自らの手で自決する道を選んだ。一家は或いは車座になつて手榴弾を抜き、或いは力ある父や兄が弱い母や妹の命を断つた。そこにあるのは愛であつた。この日の前後に三九四人の島民の命が失われた。

その後、生き残つた人々を襲つたのは激しい飢餓であつた。人々はトカゲ、ネズミ、ソテツの幹までを食した。

死期が近づくと、人々の衣服の縫目にたかつてい

たシラミはいなくなり、その代り、まだ辛うじて呼吸を続いている人の眼に、早くもハエが卵を生みつけた。三五名の将兵のうち、一八名は栄養失調のため死亡し、二二名は米軍の攻撃によつて戦死した。

『八月二十日、第一中隊前進陣地ニ於テ、各隊兵器ヲ集積シ、遙カ東方皇居ヲ抒シ、兵器訣別式ヲ行フ。太陽ハ輝キ、青イ空、青イ海、周囲ノ海上ニハ数百の敵艦艇ガ静カニ遊戈、或ヒハ碇泊中ナリ。唯茫然。戦ヒ既ニ終ル』

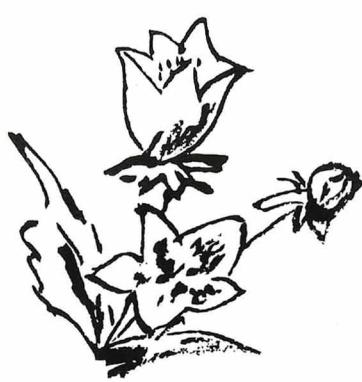
昭和五十四年三月 曾野綾子撰 (陣中日誌より)

以上が碑の全文である。何回読んでも涙なくしては読めない。

去る三月二十二日、那覇の泊港を出た船は、東支那海の荒波に揉れながら、慶良間列島の渡嘉敷島に向つた。途中、前島の海上で慰靈祭を行つた。船は汽笛をならして停船し、船長が慰靈祭を行ふ旨を放送した。船は波しづきをあげてゆれ、汽笛が細く風と波の中に消えて行く。乗船の若者たちは全々無関心である。戦争を経験したらしい年令の人たちだけが、吾々の手を合わせているのを眺めていた。

一時間半、やつと船は渡嘉敷島に着いた。村長以下島民の出迎えをうけ、すぐ、「白玉の塔」で軍民合同の慰靈祭を行つた。

長い間渴望して止まなかつた渡嘉敷である。両手を合わせて眼をとじると、胸の底から熱いものがこみあげて來た。



てくれ、遺骨は本人のものだと断言してくれた。前島の海で戦死した人は「海ゆかば」の歌の通り、水漬く屍で遺骨は望むべくもない。本人の遺骨が戻り、遺体収容の当時がわかるなど、この戦争の犠牲者の中では数少ない幸運児と思つ。

翌日、戦死地点へ行つた。案内してくれた教育委員会の彼は、その時十五才であった由。小高い山の昇り口で、旧隊員が花や線香、蠟燭、酒などを供えてくれた。旧隊員の一人が、「佐藤小尉殿、北海道からお姉さんと妹さんがお迎えに来ました。心安らかに故郷にお還り下さい」と云つた。熱い涙が溢れ出ると同時に、二十四才で散つた弟の思い出が、頭の中をかけめぐつた。

夕方四時、船は渡嘉敷の港をはなれた。当時、島民の家へ宿泊して居たので、弟を知つて居る老夫婦が見送りに來た。中隊長が宿つていたとの事。この老夫婦を引合わせてくれた。老夫婦は私と妹に話しかけるが何を云つてゐるのかさっぱりわからない。私は「おぢいちゃん、おばあちゃん又来ますよ、お元気で長生きしてね」と、固い黒く陽やけした手を握りしめた。私は再び東支那海のうねりを越えた。だんだん小さくなる島に向つて私はこう叫んだ。

「これで私の戦後はようやく終了つた」と。

組合員及び従業員の健康を守る。』

## 集団検診実施

我々電気工事業を業とする者が、常時使用する労働者については、毎年一回以上定期に健康診断をさせなければならぬ(労働安全衛生規則第四十九条第一項)ことは、すでに承知で実施していることと思いますが、従来社会保険加入事業所の所属員に対する健康診断は、大人数の事業所はそれぞれの事業所に検診車を廻してもらえて便利であったが、少人数のところは、何れかの大事業所へ行つて検診をうけねばならず、時間的にも不経済であり、又このために検診をうけない事業所もあるのではないかと考え、組合では本年度初の試みとして、個々の申込を組合単位でとりまとめ、一定日に検診をうけるよう計画し、函館市内の支部の合意を得て実施することとした。

六月七日前九時、検診車の到着と同時に各事業所から集まつた約六千名近い従業員が次々と検診をうけ予定時刻の十一時頃に合計一四一名の対象者が検診を終了した。

予め、検診日が決められてるので、予定がつき易く、大変好評であったので、来年から引き続き実施することとし、函館市以外の郡部についても支部単位の実施を指導していく考えである。

なお、この検診により一名の要入院者が出来たが、受診しなければわからなかつたことを思うと、不幸中の幸いといえるのではないだろうか。

## 『安全協森プロック』伊達火力見学会

からりと晴れあがつた早朝の五号線の松並木、横津岳、大沼公園、駒ヶ岳と、道南の誇る風景を横目で見ながら、愛車をかって森町へ……

今日は森プロック安全衛生協議会の行事としての、北電伊達火力発電所の見学会に同行させて貰つた。私にとつては、二年振り三度目の同所見学である。

午前八時、貸切バスは八雲支部森プロックの組合員および従業員一行三十七名を乗せ、北電森営業所の前を出発した。

水口電気工業所社長のあいさつについて、機関誌『いなづま』の記事取材のため同行した旨紹介され、車窓から見る秀峯駒ヶ岳の移り変わりに驚嘆を発しながら十時三十分目的地に到着した。

早速会議室に案内され、担当職員より施設の概要説明につづきスライド映写による説明を受けた後、本館のタービンと制御室を見学する。

ここへ來るたびに感ずることであるが、この広い建物の中に塵ひとつ目にすることがないのである。今日もまた不思議さと感心さにうたれた私である。

このあと、温泉養殖センターの施設を見学し、バスにより一基三〇、〇〇〇kWという燃料タンク、排煙脱硫装置、放水口等構内諸施設の説明を受け、正午ちょうど見学を終了した。

構内にあつて面積およそ一万坪を誇るスポーツ公園の芝生に身を休め、昼食のカニメシ弁当で腹ごしらえをし、午後零時三十分、帰路のバスに身を委ねた。

途中で積み込んだビール、ワンカップのせいか、車中は一段とにぎやかになり、横綱『北の湖』の出生地牡蠣町、権災の水都『洞爺湖』を経由、午後六時無事森に帰着見学会を終了した。



佐藤 勇  
事務局



伊達火力で説明をきく

あかるい明日を技術でひらく

## 東芝電材株式会社



三菱電材特約店  
あらゆる電設資材卸

040 函館市大繩町二十一番十四号  
電話 函館四一一三二四一

函館市西桔梗町五八九一〇八  
電話 四九一六二二一六

吟味する

## 松下电工株式会社 函館営業所

函館市昭和町三九六の一  
電話 函館四二一五八二二

工事材料・電化製品

## 丸晃電気株式会社

函館市西桔梗町五八九一四九  
電話 四九一一三一三

全道随一の照明設備センター  
電設機器資材の総合電機卸

## 大興電機株式会社

本社 営業所  
札電函館 話市  
幌代千代四九一  
八二二才一七一  
雲福四の一  
島八三一七

電響通信機器  
音響工事材料  
総合商社

## 隆東電機株式会社

函館市西桔梗町五八九一〇八  
電話 四九一六二二一六

電設資材・機電綜合卸

## 進和電機株式会社

040 函館市松川町三四一  
電話 四二一六二二一三

明日をひらく電設資材の総合卸商社

## 株式会社工ニヤ商会

函館市豊川町七番二  
電話 二六一三二〇八  
本社札幌支社・東京  
出張所・苫小牧

函館出張所  
本社札幌  
新中野町二丁目二番地  
中島二番地  
五番地  
六番地  
一四一  
二二五  
番号

## 石垣電材株式会社

本社  
支店  
函館営業所  
040  
函館市中央区北六条西二三丁目一  
番地  
新中野町二丁目二番地  
中島二番地  
五番地  
六番地  
一四一  
二二五  
番号